

昆虫は基本的に春から秋にかけて活動するため、冬の間はなかなか昆虫をみることはできません。しかし、冬だからといって、昆虫が死んでしまったわけではありません。私たち人間からみえないところで、しっかりと生きています。

木の中はまるでマンション！？

昆虫は、種類によって冬を越す場所が違います。しかし、朽木の中ではいろいろな種類の昆虫たちが冬越ししています。どんな昆虫が朽木の中にいるのでしょうか。

コクワガタ



幼虫も成虫も朽木の中で冬を越します。広葉樹の朽木によく入り、針葉樹の朽木に入ることはほぼありません。

オサムシの仲間



飛べない(カタビロオサムシ以外)甲虫です。死んだ動物の肉や死んだ虫、落下した果実などを食べる、森のお掃除屋さんです。

マイマイカブリ



裏磐梯に生息しているのは、マイマイカブリ東北地方南部亜種のコアオマイマイカブリです。カタツムリの殻に頭を突っこんで食べる姿が、「マイマイ(カタツムリ)をかぶっている」ように見えるので、この名がつけられました。



朽木と一言で言ってもいろいろな朽木があります。何の木の朽木なのか、どれくらい乾燥しているのか、どこにあるのか、どれくらいの硬さか。昆虫によって好みがあるかもしれませんね。

スズメバチの仲間



基本的に女王蜂のみが冬を越します。しかし、スズメバチネジレバネという寄生昆虫に寄生されると、働き蜂やオス蜂でも冬を越すようになります。

みえないけど・・・

私たちの目にみえていないだけで、昆虫たちは冬を乗り切るため、必死に生きています。普段は気にも留めない、みえない朽木の中の世界を想像しながら森を歩いてみませんか？